
ある登山家達のお話

悲劇のM

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ある登山家達のお話

【Nコード】

N1661E

【作者名】

悲劇のM

【あらすじ】

大学生登山家達の、ちょっと短いお話。

あるところに大学がありました。

その大学では山岳部という集まりがあつて、時々山に登ったりして楽しんでます。

その中でも仲の良い4人の学生はいつも一緒に山登りをしています。今回、彼らは初めて有名な山であるF山に登る事にしました。

4人は初めてのF山という事ではりきっていました。

しかし、周囲からは反対の声があがっています。

何故かという、時期が冬場という事で遭難などの危険があるからでした。

しかし、今までいくつもの山を登ってきた4人はそんな事耳に入りませんでした。

4人は早速F山に登るための準備をしました。

そして、いよいよF山に登る日がやってきました。

天気は快晴、絶好の登山日和です。

4人は早速F山の坂を歩き始めました。

しばらく歩いていくと、だんだん寒くなってきました。

高いところに行くと寒いのはあたりまえですが、F山の寒さは今まで登ってきたどんな山よりも厳しかったのです。

しかし、4人は順調に進んでいき、辺りが暗くなる頃には7合目に着いていました。

「今日はここにテントを張ろう」

リーダー格の太田が言いました。

他の3人も賛成して、テントを張る人と晩御飯を作る人に分かれて作業に取り掛かりました。

無事にテントも張り、皆で円を作って晩御飯のカレーを食べました。カレーを食べながら、4人は楽しく語り合いました。

「F山の山頂からの景色も、明日で見れるかな」

「順調にいけば明日にでも頂上につくかもな」

「よっしゃ、明日も4人で頑張ろうぜ!!」

こんなに歩いたのに皆元気いっぱいです。

しかし、一人だけ顔色の悪い人がいました。

「どうした藤山？元氣無いな」

太田が元氣無さそうにしている藤山に言いました。

「いやあ、ちよつと寒くて」

「それはいかな、よしつ、片付けは俺達に任せてお前はテントで先に寝てろ」

「うん、そうさせてもらうよ」

そういいながら藤山はテントに入っていきました。

翌日、4人は再び山頂を目指して歩き始めました。

しかし、しばらく歩いていくうちに霧が発生したかと思うと、吹雪が襲い掛かってきました。

仕方無しに4人はテントを張って吹雪が止むのを待つことにしました。

しかし、吹雪は止むどころか勢いを増して4人に襲い掛かりました。そして、気付けばもう夜になっていました。

4人を睡魔が襲います。

しかし、眠ってしまうと凍死してしまうので眠ることも出来ません。すると、藤山が突然倒れました。

「藤山、大丈夫か」

太田が藤山に駆け寄ります。

「ちよつと頬を殴ってくれ」

「ああ」

次の瞬間、テントに『パン!!』と頬を殴る音が響きました。

しかし、藤山はまどろみ、今にも眠ってしまいそうです。

「おい、起きろ藤山！寝ちやいかな!!」

太田は藤山を殴りつづけました。

その度にテントの中で頬を殴る音が響き渡りました。しかし、遂に藤山はぐったりとしてしまいました。

そして、太田が皆に向かって言いました。

「もう明日には下山しよう」

そして、4人は朝を迎えました。

昨日の吹雪は嘘のように止み、今朝は雲一つ無い快晴でした。荷物をまとめると、太田はまだ息のある藤山を背負いました。

しかし、途中まで太田の首筋にかかっていた藤山の吐息が無くなりました。

麓に着くと、太田はいそいで救急車を呼びました。

すぐに救急車は着き、4人を乗せて病院まで行きました。

救急車の中で太田は藤山の容態を診ている看護婦さんに問いました。

「藤山は助かるんですか？」

「病院について、医師の判断がつくまで分かりません」

程なくして救急車は病院に到着し、藤山は処置室に運ばれました。

3人は無言で藤山を待ちました。

1時間程して処置室の扉が開いて医師が出てきて言いました。

「藤山君は助かりそうにない・・・」

医師の報に、3人は彼に対するすまなさが湧き出てきました。

そして、医師は不思議そうに3人に尋ねました。

「彼はどこからすつ転んだのかね？」

「いえ、違います」

「いやあ、雪山で吹雪に遭って遭難したというのに、死因が全身打撲なんだ。全く、何故こうなるのだろうか」

（後書き）

どうでしたか？是非感想や指摘など貰えると嬉しいです

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1661e/>

ある登山家達のお話

2010年11月24日09時00分発行